

【成果と課題】

【成果】

- ◎ 単元設定にストーリー性をもたせたり、どの学年も「できる喜び」を意識して授業づくりに取り組むことができた。
- ◎ 研究主題にせまるために、指導計画では「知る」「つかむ」「高める」の段階的な指導やムーブタイムを設定したことが効果的であった。
- ◎ 対話的活動をするためには、児童同士の言葉掛け(特にチームスポーツで)が大事である。そのために、教師の言葉掛けも重要である。
- ◎ 器械運動でのICTの活用も、対話的活動に効果的であった。
- ◎ 教員の実技研修会を開くことで、指導方法を共有し、授業へ生かすことができた。

【課題】

- ◎ 低学年から基礎感覚づくりや、体の使い方が苦手な児童に向け、多様な動きをつくる運動遊びの指導を重要視する。
- ◎ 児童にめあてのたてさせ方が難しい「オープンスキル(ゲーム等の相手がいて成立する運動)」「クローズスキル(器械運動)」での、それぞれのめあて設定のさせ方の指導が難しかった。
- ◎ 単元設定や身に付けてほしい力を教師側が理解して指導することが大切なので、教材研究を引き続きすすめていきたい。

【春の風小学校 体育学習 スタンドアード】

あいさつ ➡ めあての確認 ➡ 準備運動 ➡ 感覚づくり【ムーブタイム】

➡ 主運動 ➡ 整理運動 ➡ 振り返り ➡ 片付け ➡ あいさつ

~~~~~ 印の順は、学習内容によって変更になっても構いません。